

令和2年度富士宮市指定地域密着型サービス事業者等指導方針

この指導方針は、富士宮市が指定地域密着型サービス事業者等に対して、対象サービスの内容及び介護報酬の請求等に関する指導を実施するに当たり、重点的に指導する事項を定めることにより、対象サービスの質の確保及び保険給付の適正化を図ることを目的とします。

1 基本的な考え方

指定地域密着型サービス事業者等に対する指導に当たっては、より良い介護サービスの実現に向けた事業者の育成及び支援に重点を置いて行います。

なお、実地指導等に当たっては、あらかじめ日時、場所等を文書により指定地域密着型サービス事業者等へ通知しますが、あらかじめ通知したのでは当該事業所等の日常におけるサービスの提供状況を確認することができないと認められる場合は、指導開始時に文書により通知します。

2 指導の重点事項

(1) 新型コロナウイルス感染症拡大防止の徹底

全国の介護保険施設等において新型コロナウイルス感染症の集団感染が発生していることから、改めて感染防止対策の取組の徹底と、感染が疑われる者等が発生した場合の適時適切な対応が図られるよう、次の事項について指導します。

- ・感染症対策マニュアル等に基づき、事業所内で適切な対策が取られているか
- ・マスクや消毒薬その他必要な衛生用品の備蓄に努めているか
- ・感染が疑われる者等が発生した場合に、保健所等への連絡、消毒等の実施、濃厚接触が疑われる利用者・職員の特定や勤務体制の見直しなどができる体制となっているか

(2) 人員基準の遵守及び勤務体制の確保

介護サービスの質を確保する観点から、基準等で定められている従業者数の確保と、適切なサービスの提供が行われるよう、次の事項について指導します。

- ・従業者の勤務状況(兼務している場合は、それぞれの勤務状況)を示す書類の整備
- ・利用者に対し適切なサービスを提供するために必要な体制の整備(過剰な兼務により職務上の役割が果たされていないことはないかなど)
- ・従業者に必要な資格の取得及び研修の受講

(3) 利用者の安全・安心の確保及びサービスの質の向上のための運営基準の遵守

① 「虐待防止」の徹底

介護サービス利用者の尊厳の保持において、利用者に対する虐待を防止することは極めて重要であることから、虐待の未然防止、迅速な対応のための取組が図られる

よう、次の事項について指導します。

- ・虐待防止について、研修等を通じて従業者等へ周知しているか。
- ・虐待が起きてしまった場合（虐待の疑いがある場合を含む）について、事業所として適切な対応ができる体制となっているか。

② 「身体拘束廃止」の徹底

適切な手続を踏まない身体拘束は、虐待に該当する場合もあることから、要件や手続の面で極めて慎重な取扱いが求められます。これを踏まえて、次の事項について指導します。

- ・例外3原則(切迫性、非代替性、一時性)の要件の適合状況の確認
- ・身体拘束に関して、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況、緊急やむを得ない理由の記録
- ・利用者・家族への説明
- ・身体拘束の適切な解除予定時期及び解除に向けた検討状況の確認
- ・身体拘束の適正化のための指針の整備
- ・身体拘束に係る従業者に対する定期的な研修の実施
- ・「身体拘束廃止委員会」等の定期的な開催及び当該委員会での検討状況の確認

③ 「事故防止対策」及び「苦情対応」

- ・事故の内容を正確に記録し、従業者間で情報を共有するとともに、事業所全体で原因の究明及び実効性のある再発防止対策を講ずるよう指導します。
- ・保険者に報告すべき事故の報告について徹底を図ります。
- ・苦情は、サービスの質の向上を図る上で重要な情報であることから、事業所全体で情報共有するとともに、苦情の内容を踏まえた取組を積極的に行うよう指導します。

④ 「計画」の適切な作成

ア より良いケアマネジメントの推進

ケアマネジメントについては、個々の利用者の置かれている環境や希望等を把握、分析した上で、利用者の自立を支援し、状態の悪化をできるだけ防止する視点に立って、適切なケアが総合的かつ効率的に提供されるよう、次のプロセスの実施について、徹底を図ります。

- (7) 利用者の状況を把握し、生活上の課題を分析する。(アセスメント)
 - ・アセスメントにおいて課題分析標準項目を備えるとともに、把握した情報を整理し、利用者にとって真に必要な課題を精査するよう促します。
- (8) アセスメントを踏まえて総合的な援助方針、目標を設定するとともに、利用者の希望等を考慮して適切な介護サービス等を組み合わせる。(プランニング)
 - ・利用者の状態に応じた適切な長期目標及びそれを達成するための短期目標を明確に盛り込み、それらを達成する期間を適切に設定するように指導します。

- ・医療機関との連携を図るため、利用者の主治の医師等について、居宅・施設サービス計画（ケアプラン）への位置づけを促します。

(7) (7)及び(4)について、サービス担当者会議等において支援に関わる専門職間で検討・調整し、認識を共有した上で効果的・効率的なケアプランを策定する。(多職種協働)

- ・ケアプランの作成に当たっては、利用者の家族等も含めて、支援に携わる多職種の者が協働して検討し、情報・認識を共有するよう指導します。

(8) ケアプランの作成後においても、継続的にそれぞれのサービスの実施状況や利用者の状況の変化等を把握し、ケアの内容等の再評価・改善を図る。(モニタリング)

- ・初回のケアプラン作成だけでなく、ケアプラン変更に際しても所要のプロセスを踏むべきことを指導します。

イ 居宅サービス計画

(7) 実地指導において、所要のプロセスを適切に行っておらず、運営基準減算に該当するなどの不適切な事例が見受けられるため、介護保険制度の基本理念を実現する上で、指定居宅介護支援事業者が極めて重要な役割を果たすことについて、徹底を図ります。

- ・利用者によるサービスの選択に資するよう、特定の種類又は特定の事業所に偏ることなく、地域の居宅サービスやインフォーマルサービスなどの情報を利用者に公正中立に提供した上で、利用者の日常生活全般を支援する観点から、これらのサービスを適切に位置づけているか確認します。

- ・サービス担当者会議について、適時に開催しているか確認します。また、会議に出席できないサービス事業所に対し、適切に意見照会を行っているか確認します。

- ・モニタリングについて、内容が乏しいと認められる事例、結果の記録の内容が不明確な事例などが見受けられることから、形式的に実施するのではなく、自立支援型のケアマネジメントの推進のために、サービスの実施状況、利用者の満足度、目標に対する進捗状況の把握、評価、計画変更の必要性の検討等を適切に行うとともに、これらの結果を明確に記録するよう指導します。

- ・サービス事業所が提供したケアプランと異なるサービスや加算対象サービスについて、当該サービスの必要性の検討やケアプランの修正等を行うことなく単に給付管理業務のみ行っているような事案に対しては、適切なケアマネジメントを行うよう指導します。

(4) 適切なケアプラン作成のためには、医療をはじめとする他機関との連携、調整が重要であることから、これら他機関との連携を積極的に図るよう指導します。

・医療サービスについては、そのサービスの必要性について主治の医師の意見を求めた上で、ケアプランに位置づけるよう指導します。

- (7) ケアプランの作成遅延に伴うサービス事業所への交付の遅れが、サービス事業所における個別サービス計画の作成遅延につながることから、適時のケアプランの作成について指導します。

ウ 施設サービス計画

- (7) 介護保険施設等の施設サービス計画について、アセスメントやモニタリング等を介護職員が行っているなど、介護支援専門員によるケアマネジメントが適切に行われていない事例が見受けられるため、介護支援専門員が適切にケアマネジメントを行うよう指導します。
- (4) サービス担当者会議について、適時に開催しているか確認します。
- (9) モニタリングについて、内容が乏しいと認められる事例、結果の記録の内容が不明確な事例などが見受けられるため、サービスの実施状況、利用者の満足度、目標に対する進捗状況の把握、評価、計画変更の必要性の検討等を適切に行うとともに、これらの結果を明確に記録するよう指導します。

エ 事業所における個別サービス計画

- (7) ケアプランの交付遅れなどにより、個別サービス計画が未作成又は作成が遅延している場合であっても、個別サービス計画を作成し、当該計画を利用者等に説明し、同意を得て、利用者へ交付した上で、サービス提供を行う必要があることについて、徹底を図ります。
- (4) ケアプランに沿って個別サービス計画が作成されていない事例や個別サービス計画に、サービスの目標、当該目標を達成するための具体的なサービスの内容等必要な事項が記載されていない事例などが見受けられることから、サービス担当者会議等を通じて、居宅介護支援事業者等との密接な連携を図るよう指導するとともに、ケアプランに沿った適切な内容の個別サービス計画を作成するよう徹底を図ります。

① 「非常災害対策」の徹底

平成23年3月に発生した東日本大震災、平成28年8月に発生した岩手県における風水害等の教訓を活かし、また、予想される南海トラフ巨大地震や水害・土砂災害への備えとして、高齢者施設等における適切な災害への対応を図るよう、次の事項について、徹底を図ります。

- ・静岡県が作成した「高齢者福祉施設における災害対応マニュアル」等に基づいた対応
- ・地震、火災、風水害（土砂災害を含む）等の非常災害に対する事業継続を意識した具体的計画の作成及び避難・救出訓練の定期的な実施
- ・避難・救出等の訓練を行うに当たっての消防関係者への相談及び地域との連携体

制の整備

- ・従業者への非常災害に対する具体的計画の定期的な周知及び防災教育の実施
- ・職員分を含め、利用者の状態に応じた食料・飲料水等を1週間分程度備蓄し、災害時における食料・飲料水等の調達方法の確保の促進

⑤ 「特別養護老人ホームにおける入所手続」の適正な運用

平成27年4月1日以降、特別養護老人ホームへの入所は、原則要介護3以上の方に限定され、要介護1又は2の方は、居宅において日常生活を営むことが困難なことについてやむを得ない事由がある場合に、特例的に入所（特例入所）が認められることとなったため、特例入所を含む入所手続が適正に行われるよう指導します。

また、平成29年4月改正の優先入所指針に沿った入所手続が適正に行われるよう併せて指導します。

なお、富士圏域（富士宮市及び富士市）の指定介護老人福祉施設等における優先入所の取扱いについては、平成15年から、静岡県 of 優先入所指針によらず、富士圏域指定介護老人福祉施設入所指針に基づき適正な運用がされていることから、当該指針の運用状況を確認します。

(4) 適正な請求

① 不適正な請求の防止

加算等について基本的な考え方を理解しているか、要件を満たした報酬の請求が行われているか等について確認することにより、不適正な請求の防止となり、より良いケアへの質の向上を図ります。

② 記録等の整備

報酬基準上必要な記録・書類が整備されているか、適切に実施するように指導します。

③ お泊りデイについて

介護サービス事業者に対し、厚生労働省の「指定通所介護事業所等の設備を利用し夜間及び深夜に指定通所介護以外のサービスを提供する場合の事業の人員、設備及び運営に関する指針」に沿ってサービスを提供するよう指導します。特に宿泊サービスを提供する場合の届け出及び宿泊サービスの提供により事故が発生した場合の連絡等については、漏れなく行われるよう指導します。

(5) その他

① 介護職員の処遇改善

介護職員の処遇改善の確保を図る目的で創設された介護職員処遇改善加算制度については、実地指導において、加算の算定要件に合致しているか、また、事業所の管理者がキャリアパス要件等の内容の理解ができているかに加えて、介護職員処遇改善計画等の周知が適切な方法により実施されているかを確認します。

なお、キャリアパス要件にはⅠ、Ⅱ、Ⅲがあり、これらの要件全てと職場環境等要件を満たすことにより最も加算率の高い加算区分（Ⅰ）を算定することができますが、加算区分（Ⅰ）以外の事業所には、加算区分（Ⅰ）へ移行するための助言を行うとともに、令和元年度に創設された特定処遇改善加算の算定に向けた取組についても助言を行います。

② 業務管理体制の整備

指定地域密着型サービス事業者等は、要介護（要支援）者の人格を尊重するとともに、介護保険法又は当該法律に基づく命令を遵守し、要介護（要支援）者のため忠実にその職務を遂行する義務の履行が確保されるように、業務管理体制を整備しなければなりません。そのため、市に業務管理体制の整備に関する事項を届け出なければならないにもかかわらず未届けの事業者に対しては、速やかに届け出るよう指導します。

③ 福祉サービス第三者評価の実施状況に係る説明

サービス提供の開始に際しての事業者から利用者に対する重要事項の説明に当たり、福祉サービス第三者評価の実施状況（実施の有無、実施した直近の年月日、実施した評価機関の名称、評価結果の開示状況）についても説明するよう指導します。